

連合福島・福島県令和2年度対県要請行動

「政策・制度の提言要請書」を内堀知事に手交 今野会長、「人を大切にし、『多様性』を認める社会を」 内堀知事、「県の総合計画には、『多様性を大切にする』という視点を明確に示す」

連合福島は、12月20日、今野泰会長はじめ連合福島政策委員会メンバー6名が、「連合福島 令和2年度予算編成に対する政策・制度の提言」の要請書を内堀雅雄知事に手交しました。



内堀知事と要請書を手交する今野会長

始めに、今野会長より台風被害において、知事自らが被災地にいち早く駆けつけ、対応していたことに多くの県民が勇気づけられたことに対し、感謝の意を伝えました。

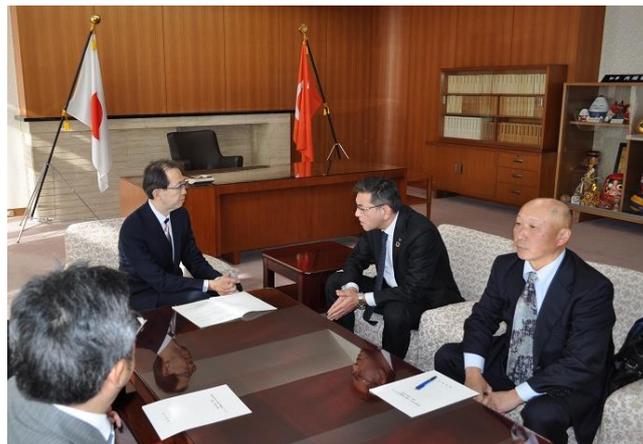
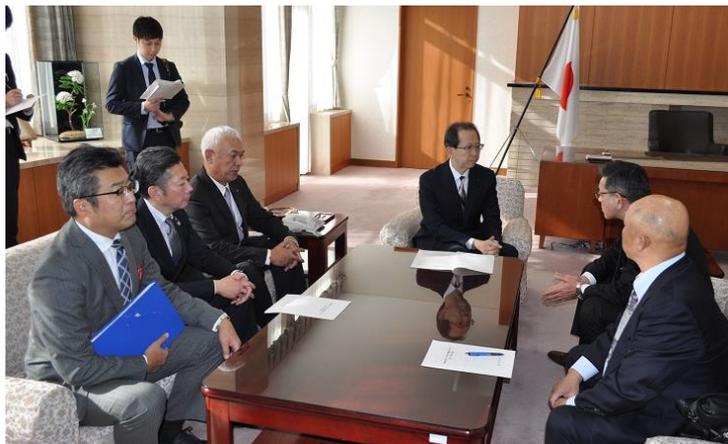
また、要請にあたっては、今回の要請にこめられた「思い」として、「人口減少を新たな価値観の創造のきっかけとしてポジティブにとらえること」、「集中と選択ではなく、人を大切にし、福島県の『包摂性』を最大に示し『多様性』を認める社会



をめざす。」が必要であることなどを伝えました。

これに対して、内堀知事からは、「同感であり、新しい県の総合計画には『福島県民・人を中心とする』、『多様性を大切にする』という視点を明確に入れさせていただく。」、併せて、連合と共にがんばらせていただくとの話をいただき、これらからもお互いに協力し合うことを確認し要請行動を終了しました。

今後は、県の各担当部局から回答が出されることとなり、その回答に対する交渉をおこなうこととしています。



内堀知事と懇談する連合福島政策委員会代表の皆さん